



新型コロナウイルス感染症の検査、医療体制強化を

市議会議員
かけのまち子



電話/Fax 53-7727
kakenom@xj.commufa.jp

市議会議員
みわ 陽子



電話/Fax 54-6712
yokko0520mi@yahoo.co.jp



尾北医師会との懇談

尾北地域に検査センターを

尾北医師会との懇談を踏まえ、秋、冬の第2波、第3波に備えて、今のうちに新型コロナウイルス感染症の検査センターをこの地域に作る必要がありますと質しました。

唾液での検査や早く結果の分かる抗原検査も可能になりましたが、「個人病院で検査するのはリスクが大きく、検査センターを作りそこへ医師が交代で出向く方法が実現の可能性が高い」（尾北医師会長）との話でした。

市から県への強力な要請で、早急に実現するよう求めました。

発熱外来を増やして

熱が出た時に他の患者とちがう動線がある発熱外来（現在、市内では江南厚生病院のみ）を増やすことも必要です。

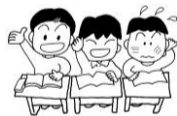
市からの財政援助で、少なくともあと2、3か所発熱外来を作るよう求めました。

子どものインフルエンザワクチンへ助成を

尾北医師会との懇談では、「今年の秋冬は、インフルエンザワクチンの接種がいつにも増して重要」との認識で一致しました。市議会が請願を全会一致で採択した、子どものインフルエンザワクチン接種への助成が一日も早く必要です。

安全対策と学力保障のできる学校を

子どもたちに少人数学級のプレゼントを



授業が再開されても40人学級ではソーシャルディスタンスはとうてい無理。休校中に生じた学力差を埋める丁寧な指導のためにも20人～30人の少人数授業が必要です。

日本共産党は「教員を10万人増やして、少人数学級を子どもたちにプレゼントしよう」を政策として打ち出しました。しかし、市では予算も人手もなく、今まで通りの算数などの少人数授業のみで、感染の不安が残ります。

子ども達の様子をしっかりと見てケアをし、教材の精選、工夫に力を注ぐべき教員が、教室の消毒やトイレ掃除で消耗させられている現状を早急に改善すべきです。

市では各校1人の「スクール・サポート・スタッフ」を県に要望中ですが、大幅な教員の増員を求めました。

熱中症対策を

夏休みが短くなり熱中症が心配です。特に8月第1週は最も気温が高い時期。3時間の午前中授業のために登校するのは熱中症リスクが高く、思い切って家庭学習にすべきと質しましたが、時間数不足を補うため実施の方針は変えないとの答弁でした。

日傘やクールネックカバーの使用を認める、通学路の途中にクールステーションを設ける、ペットボトルの水を子ども達に配る（13日間）などの熱中症対策をとると市は説明しています。

給食費補助で子育て世代への支援を



7月8月の13日間分の給食費は市が負担しますが、これだけではなく、他の市町並みに9月、10月分の給食費を市が補助するよう求めました。

6月定例会で実現しました

江南市独自の主なコロナ対策

- ・4月28日以後12月31日までに生まれた子にも1人10万円の給付
- ・児童扶養手当、および就学援助受給世帯にお米券10kg相当の配布

踏み間違い防止装置に補助

65歳以上の高齢者が「ペダル踏み間違い急発進抑制装置」を後付けする場合、申請すると1割程度の負担で済む補助制度ができました。認可事業所でのとりつけが必要で、補助は2021年1月31日まで。

公共施設利用者の名簿提出の義務化に「待った！」

公共施設再開にあたり、市が新型コロナウイルス対策から利用者名簿の提出を要求していた問題で、党議員団は「個人情報保護条例が禁じている、思想信条、信教、社会的差別の原因となるおそれのある個人情報の収集にあたる」と指摘。

「団体代表者が出席者の連絡先をつかんでいれば、代表者の連絡先提出だけでよい」（部長答弁）と、市の方針を是正させることができました。

市政へのご意見や困り事など、お気軽にお寄せください。

かけのまち子（53-7727） みわ陽子（54-6712）

森ケイ子（57-2753） 東よしき（54-7977）